

レーザー加工機によるプリント技術を学ぶ
荒砥高の生徒たち 白鷹町・tukuru



現場見学、地元産業の力

白鷹 荒砥高生が魅力発見

白鷹町の荒砥高（地主佳子校長）の1年生16人が地元製造業や農業、伝統工芸の現場を見学する「魅力発見ツアー」が先月25、26の両日に行われた。生徒たちは町内を巡り、地域産業の技術力や魅力に触れた。職業選択への意識を高めようと同校が初めて実施し、町内約20の企業などが協力した。ツアー2日目は工業、商業、建設の3コースから関心のある分野を生徒が選び、それぞれ4、5

カ所を訪れた。

レーザー加工機を用い、金属や木材などさまざまな材質に文字や図柄を印刷できる「tukuru」（小松正和社長）には、工業、建設の両コースの生徒が訪問。インクや型が不要で環境に優しい点や、少ない個数の注文に対応可能な同社の特徴などを学んだ。

ボールペンに生徒の名前を印字する体験もあり、プリント開始から5秒ほどで完成。斎藤共希さん（17）は

「仕上がりの速さに驚いた。ものづくりの楽しさに触れることができた」と話していた。
（上妻大晃）